

晨熱邪頓解。悸動以息。六脉平緩。飲膳加進。不日而尊履如常。尙連進數貼。而陰瘡尋愈。決旬全安。管窺允當。何其幸歟。何其幸歟。願不啻神明之助。實先哲之賜也。抑非讀長沙書以有得焉。則余亦不過踏前車之轍。以依樣畫葫蘆耳。蓋先人將逝之日。諄々語我曰。汝欲卒成業。則惟可讀先哲之書。詎徒以就世醫之門。而學祿々之技爲乎。乃恭佩遺言。自少壯迨衰謝。塵勞之暇。未嘗以一日廢書。聊欲成先人之志也。居常在家戒兒曰。余雖不肖。嘗奉先人之教。而箕裘以存。汝當如我。而汝之子孫。亦復如此。庶無以墜業也。汝輩謹莫忽諸。享保四年重陽日。復菴源良正謹書。

### 可觀小説卷九

一、神祖の御仁徳、鷹匠の罪を赦し給ふ

神祖御鷹匠淺利左近甲州著御秘藏の御鷹の股に血筋出來、此類は鷹必ず落るもの也。此療治は某能く仕覺候と言上し、療治しければ早速本復す。後御穿議被成しに、股に紅花を引て偽て療治にて、能く仕候と言上せしと也。殊の外御怒被遊候けるが、上意にいやく是はあいつが咎に非ず。我等鷹に好過る故の禍也と被仰、左近は其儘被召使しと也。醫書語愚評。吾が先君陽廣公、白鷲を放し飼に被遊候時の御意と、同日の談と可申候也。神祖御怒を被止、御自責の趣は、誠御盛徳の一端と云べし。其淺利をその儘に被召使候は、訓とすべからず。君を欺くの罪、大科に可處者也。

一、筋違・切通兩邸の收公

筋違と切通との兩邸公儀へ被召上候時、事急成故燒跡の事にて掃除に手痞へ、第一御庭の石許多にて、取拂ふ事急に難成、御用人菊池彌八郎武康秋田等如何せん、詮議區々なりければ、會所奉行吉田逸角云。此石御用にさへ無之候

はゞ、早速取拂様可有之と云。彌八郎御用には無之と云。然らば仕様有之旨にて、本郷湯島の商人どもへ、兩邸の石とらせ可申候間、今日中に取除候様にとふれば、我もくくと人を出し、暮前に一石も不殘取除候故、跡々掃除成やすく、翌日公儀へ相渡候。同上

一、後水尾天皇崩御前の御夢

後水尾帝崩御の前、夢中に山下にて月二つ出たるを御覽じ、勅諭には御惱治し中間敷候。崩御ならんと被仰候。醫書語

一、前田七郎兵衛の過言

微妙公の大祥忌、寶圓寺にて法會あり。法會數日の内法事濟候得ば、牌前へ、御取立に預候御馬廻別所三平・長屋五郎右衛門・山岸三十郎等勤番す。依之此輩馬坂にて天野屋と云商人の家に集り居り、法事畢と案内次第罷出候。第二日右の通罷出候處、大横目前田七郎兵衛直玄今枝民部督齋、五云。左衛門弘政也。何れもは遅參也。早御厚恩を被忘たるかと、殊の外に叱りけり。各憤り思ひけれども、大事の場所ゆゑ其分にして、翌日組頭青山織部宗長・菊池大學秋田其趣を聞届、委細承届候間、各は其分に可仕とて、扱十三日御城中にて年寄中、